

東郷町地域の福祉課題に対して できることを考えるワークショップ 【実施結果報告書】

目次

1	目的	1
2	開催日時・場所・参加者数	1
3	ワークショップの実施概要	1
4	実施結果	4

令和7年3月

東 郷 町

1 目的

「第2次東郷町地域福祉グランドデザイン」の策定にあたり、地域の課題や困りごとに対して、地域でどのようにつながり支えあうことができるのか考え、今後取り組むべき内容を明らかにすることを目的として開催しました。

2 開催日時・場所・参加者数

日 時：令和7年2月22日（土） 10：00～12：00

場 所：東郷町民会館 大会議室

参加者数：23名

3 ワークショップの実施概要

（1）テーマ

地域の福祉課題に対して 自分たちができることを考えよう

困りごとや福祉課題を抱えた人・世帯の架空の事例に対して「できること」を考えるワークショップです。自分ひとりではできることだけでなく、ひとりではできないことを地域のみなさんで考えることでどんなことが起こるかその可能性を探ることをねらいとしています。

（2）ワークショップの流れ

アイスブレイクと話し合う事例の決定 （5分程度）

↓

STEP1 個人ワーク：意見の書き出し （10分程度）

↓

STEP2 グループワーク：意見交換・整理（できること・SOS） （30分程度）

↓

STEP3 全体ワーク：SOSに対してできることを考える （20分程度）

↓

STEP4 グループワーク：他のグループの意見踏まえて、考えを共有 （10分程度）

↓

グループごとに発表（1グループ5分程度）

(3) 話し合う事例

< 高齢者に関する事例 >

① 定年退職後の孤立

【72 歳・男性の背景】

- ・会社員として 40 年以上勤め上げたが、定年退職後に地域とのつながりがなく、日中は一人で過ごすことが多い。
- ・妻は数年前に病気で亡くなり、子どもは遠方に住んでいる。孫とはたまに電話する程度。
- ・会社では重要な役職についていたが、退職後に「自分の存在価値がなくなった」と感じ、気を失っている。
- ・食生活が偏りがちで、運動習慣もなく、糖尿病や高血圧のリスクが高い。
- ・相談できる友人が少なく、趣味も特にないため、うつ状態になりつつある。

..... A グループ

② 認知症の初期症状で困っている男性

【76 歳・男性の背景】

- ・最近、物忘れが増えてきており、同じことを何度も話してしまうことが多い。
- ・一人暮らしで、食事の準備や金銭管理に支障が出始めている。
- ・買い物に出た際、何を買いに来たのか忘れてしまうことが増え、不安を感じる。
- ・近くに住む息子夫婦は忙しく、あまり会話する機会がない。介護サービスを勧められたが、「まだ自分でできる」と拒否。
- ・近所の人と挨拶はするが、深い付き合いはない。

..... C グループ

< 複合的な問題に関する事例 >

③ 50 代の長年ひきこもりの息子と共に暮らす高齢の母親

【82 歳・母親の背景】

- ・年金収入のみで 2 人分の生活を支えており、貯金もほとんどない。
- ・体力が衰え、最近は病院へ行くのも負担に感じるが、息子が頼れないため我慢している。
- ・近所付き合いはほぼなく、親戚とも疎遠になっている。
- ・息子が今後どうなるのか不安だが、どこに相談すればいいかわからない。

【52 歳・息子の背景】

- ・20 代の頃に仕事が合わず退職し、そのままひきこもり生活に。
- ・友人や親戚との交流もなく、ほぼ母親としか話さない。
- ・働きたい気持ちはあるが、長年のブランクと対人不安で行動に移せない。
- ・母親の体調が悪くなるたびに焦るが、どうすればいいかわからない。
- ・パソコンやスマホは使えるが、就職活動や社会参加の方法がわからない。

..... D グループ

④ ひきこもりの息子と共依存状態の 80 代の父親

【85 歳・父親の背景】

- 妻は5年前に他界、55歳の息子は20年以上前に仕事を辞め、以降は親の年金で生活しており、経済的にギリギリの状態。
- 「男は働くべき」という価値観を持っており、息子を厳しく叱責してしまいがち。また、誰にも相談できず、「家の恥」として問題を抱え込んでいる。
- 高血圧や腰痛があり、家事・食事の準備が負担になっている。家の掃除や片付けが難しくなり、衛生面でも問題が出ている。
- 自分自身の健康が悪化しても、息子の生活が気がかりで施設に入れない。
- 介護サービスを利用する発想がなく、「自分が何とかするしかない」と思い込んでいる。
- 息子の将来に対する不安が強く、息子の面倒がみられなくなった後のことを考えると夜も眠れない。

【55 歳・息子の背景】

- 20代後半で仕事を辞めて以来、20年以上ひきこもり状態。
- 生活は父の年金に依存しており、経済的な自立が難しい。
- 外出の機会がほとんどなく、人との関わりを避けている。
- 父親とは口論が増え、関係が悪化しているが、家を出る選択肢が持てない。
- 自分自身の将来や父の介護について漠然とした不安を抱えているが、どう行動していいかわからない。
- 「今さら社会に出ても迷惑をかけるだけ」と考え、自己否定感が強い。

..... B グループ

<当日の様子>



4 実施結果

Aグループ（事例：定年退職後の孤立）

キーワード	区分	内容
見守り	できること	夕食などおすそ分けができると良い。
		顔を見かけたらとにかく「こんにちは」と声をかける
		隣近所との声かけから！！
		困りごとがあるか聞いてあげる。
		定期的に話を聞く。
		夫婦での話し合いを1日1回行う。
		一人でないことを伝える。
	SOS	本人からのSOSが聞こえない。
		不要な口出しが本人の負担になってしまうのでは、と関わることに躊躇する。
	SOSへの提案	SOSを発信するしくみをつくる。
		とにかく声をかけてみる。
		見守りを複数人で行う。
		サロンでの食事会に誘う。
地域活動への参加	できること	定年後は過去の立場を捨てる。
		会社での経験を活かせる発表の場をつくる。
		逆に住民活動の支える側になってもらう。
		スポーツを行う。できればチームに入る。
		軽いスポーツに誘ってみる。
		自治会行事等地域の方々との交流。
		老人会などに誘ってみる。
		住民活動に誘う。
		地域の活動に参加する。（例：老人クラブ、自治会）
		行政の講演会や研修に参加し、仲間づくりを行う。
		自分で献立表をつくり、栄養のバランスを取る。（好きなものを食べる）
		年1日は家族で食事を行う。
		計画的に旅行に行く。
	SOS	40代以上の孤立者の確認・把握が難しい。
	SOSへの提案	ぜひ民生委員になってください！
		同じ趣味等で誘い出す。

Bグループ（事例：ひきこもりの息子と共依存状態の80代の父親）

キーワード		内容
見守り、おせっかい	できること	ごみの分別・ごみ出しのお手伝いしますよ！！と声をかける。
		おかずのおすそ分けをする。（たまに、負担に思われない程度）
話をしてみる	できること	父親の話し相手になり（愚痴等を聞く）困りごと等を収集する。
		話し相手になる。
		同世代男性からのアプローチをしてもらう。
		価値観を変えるような本をすすめてみる。
	SOS	お父さんの価値観をいい感じに変える方法が難しい。
	SOSへの提案	もうひきこもり親向けサロンがあるので、それについて自治会などで回覧すると良いのでは。
声かけ	できること	声かけ。
		姿を見たらあいさつ・声かけ。
		出会ったら声をかける。
		それとなく声をかける・かけられる場合があれば。
		ごみ捨ての時、タイミングを合わせて話をしてみる。
	SOS	地域包括支援センターがもっと気軽に入れて、関わるとよい。
情報提供	できること	集まりがあったら「何かあったら包括へ」と言い続ける。
		地域包括支援センターは高齢（65歳以上）の相談は何でものってくれるということを周知する。
	SOSへの提案	情報を伝える方法を考える。
		家事支援サービスのチラシを入れる。
	SOS	近隣の人から何気なく情報を得る。
		まずは80代父の健康状態が良好なのか病院を受診して検査を勧める。
支援サービスとのつながり	できること	ケアマネさんや福祉課に相談すればよいと知らない人が多い。
		老人会へ誘ってもらう。体を動かすことや何かレクリエーションや楽しそうなことを通して、父を日中まず外へ出す。
		ずっと家にいると息子さんとの関係が今より悪くなってしまうかもしれないため、介護サービスを利用して離れて過ごすことを提案してみる。
		ひきこもり支援の団体さんに相談してみる。
	SOS	息子に対しては、息子の話を聴いてくれる人や場所を探して、本音を話せるところや人を見つける。
		LINE相談できるとよい。
		ひきこもりの息子がどの友達とつながっているのか知りたい。
	SOSへの提案	同じ立場の人達の会（家族会やサロンのような）があればいいのに。
		社会福祉協議会の地域担当の人が訪問調査する。（例：大府市）
確認・観察	できること	新聞や郵便などで生存確認をする。
		車の動きで観察する。
		限界かどうか家の周りの汚れ具合に気を配る。
民生委員	できること	相談できるところをお知らせする。
		民生委員と情報共有する。
		民生委員とかどこかに相談する。

Cグループ（事例：認知症の初期症状で困っている男性）

キーワード		内容
情報提供	できること	高齢者への簡単な情報配布を自治会から民生委員へお願いすると良い。
		介護サービスを利用してる人の話を聞いてもらう。
		介護保険を使ったサービスを受けるための認定を勧める。
		防犯用の電話になっているか確認し、なっていない時は注意喚起する。
		誰も初めは警戒したり、助けてもらうのに抵抗があるので当然のこと（恥ずかしくもない）。自尊心に傷をつけないアプローチで提案（支援は必要）。試すだけでも。
		民生委員として訪問して話を聞き、一人暮らし向けの訪問のサービスなどを知らせる。
		民生委員としても近所としても、信頼関係をつくるのに時間がとてもかかる（数年？）。まずは信頼される人・関係が大切。それからさりげない助言をする。
	SOS	地域内に困っている人がいることの把握が難しい（連携）。
集いの場	できること	好きそうなことで散歩など誘う。
		サロンや同年代の方の集まりを紹介し、人の意見を参考にしてもらう。
		サロンへ誘う。
		地区で行われる体操や講座など誘ってみる。
		飲み会で親しくなる。
	SOS	サロンなどへ男性を誘いたいが、難しい。
		あたたかいつながりのサークルなどがあると良い。 同年代の人に声をかけてほしい。
公的支援	できること	南部地域包括支援センターに電話する。
		地域包括支援センター等に相談する
		福祉サービスを大袈裟に想像しているところもあるだろうから、お元気訪問とかで徐々に顔見知りになり、紹介していく。
	SOS	認知症がどの程度進んだら一人暮らしは無理で、施設に入所してもらったらいいかの判断が難しい。
		サポートする側のマンパワーが不足しているのでは？どう確保するのか？
	SOSへの提案	後見人（保佐・補助・後見）を考えてみては。
親しくなる入り口	できること	散歩に誘う。
		時々話をする。
		買い物につき合う
		買い物リストを書く手伝いをする。
		好みを知る。
		時々おかずをおすそ分けする。
		週一くらいでも顔を見に行く（話し相手になれば）。
		外出した時をとらえ、顔見知りになる。⇒民生委員として申し出る。

キーワード		内容
近所、家族、情報交換	できること	息子さん夫婦と少しでも親しくなれるよう声かけをする。
		簡単なことからメモ、ノート、管理しやすいチェックシートなどを見えるところに大きな字で貼る。
		近所の比較的親しい人や家族と何が好き・何が嫌、何ができるかなど一度話し合ってみる。
	SOS	民生委員と自治会とのコミュニケーションが取れておらず、地域内に一人暮らしの高齢者がどういう人が居るかわからない。
		助けを求めてほしい。
		見回りサポートの役割があると良い（犬の散歩仲間など）。
		若い方が助ける組織をつくって力になってほしい。
		見回り用のジャケット、タスキ等があると良い。
	SOS への提案	サービス利用者の声を届ける。
		習慣として出かけるところをつくる（習い事やデイケアなど）。

Dグループ（事例：50代の長年ひきこもりの息子と共に暮らす高齢の母親）

キーワード		内容	
まずはお母さんへアプローチ	外出お手伝い	できること	車で病院に連れていく。
			外出するよう誘う。
			病院への付きそい。散歩に誘う。おうちC a f eに誘う。
	生活お手伝い	できること	買い出しの手助けをする。
			ごみ出しをする。
	声かけ	できること	声かけ。
			声かけしてからできることをする。
			世間話から始める。
			あいさつ、世間話をする。
			相談相手になる。
			話し相手になる。
			話す。
			聞く。
		SOS	仲間づくりが難しい。
			相談先がわからない。
		SOSへの提案	お母さんの健康を守るためにサロンなどに誘い、心も安らぐようにする。
			もう少し若い方が多いが「リネーブル」さんもある。就労支援もしている。
			ひきこもり支援団体「アウトリーチ」さんにつなぐ。
息子への支援	できること	SOS	息子さんの心理検査などの実施を試みる。
			心を開くまで時間がかかる。
	SOSへの提案	SOS	そもそも外に出ないのでは。
			息子さんの心の問題がありそうなので、ゆっくり自立へ向かうよう精神面の上手な支援を行う。

【各グループの模造紙】

Aグループ

いいねシールが多かった意見

- 逆に住民活動の支える側になってもらう。
- 地域の活動に参加する。
(例：老人クラブ、自治会)

※STEP 3の全体ワークで良いと思ったアイデアに1人3つまで「いいねシール」を貼りました。



Bグループ

いいねシールが多かった意見

- ずっと家にいると息子さんとの関係が今より悪くなってしまうかもしれないため、介護サービスを利用して離れて過ごすことを提案してみる。



Cグループ

いいねシールが多かった意見

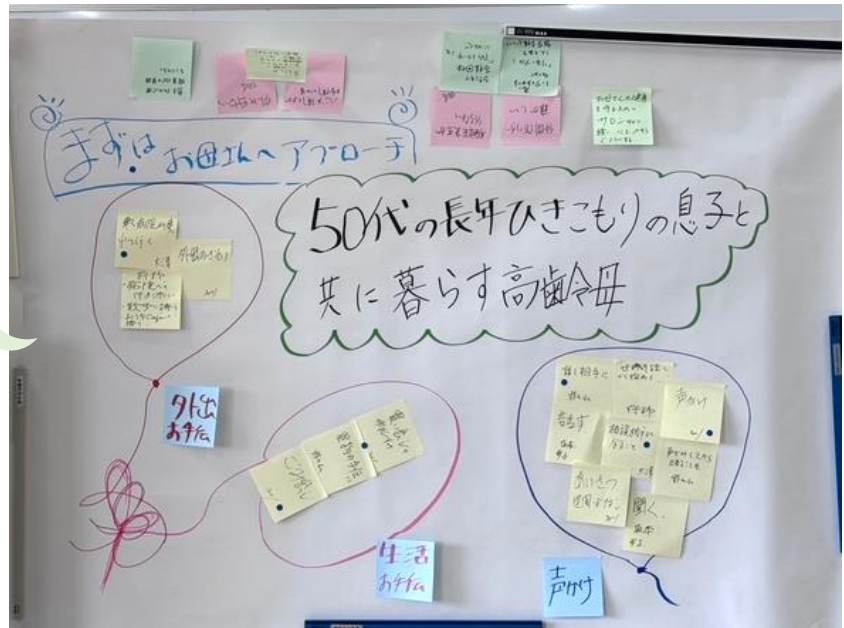
- 防犯用の電話になっているか確認し、なっていない時は注意喚起する。
- 南部地域包括支援センターに電話する。



Dグループ

いいねシールが多かった意見

- 話す相手、相談相手になる。
- 買い出しや通院の手助け。



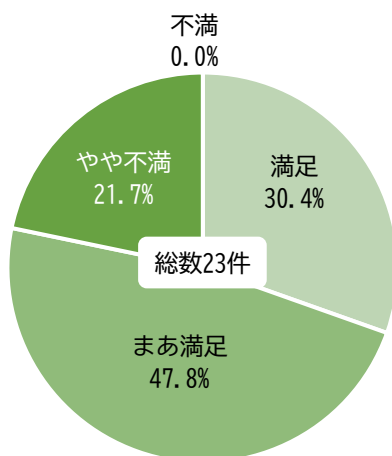
【参加者アンケートの結果】

ワークショップ終了後、参加者へ本日のワークショップの満足度及び今後のワークショップへの参加意向についてアンケートを実施しました。

本日のワークショップについての満足度は、「満足」が30.4%、「まあ満足度」が47.8%であり、合算した『満足』は78.2%となっています。一方、「不満」はなかったものの「やや不満」は21.7%であり、理由としては「テーマは高齢者向けが主であり、若者や未成年者のケースが不足していた」「解決するためのアイデアを、参加者全員で考える時間もあった方がよかった」等があがっています。

また、今後、地域のことについてのワークショップなどで考える機会があれば参加したいかは、「ぜひ参加したい」が21.7%、「都合がつけば参加したい」が73.9%となっています。

Q. 本日のワークショップの満足度



Q. 今後のワークショップへの参加意向

